

「自然災害への備え ～ 手をつなごう」

フィリピン生まれ日本育ちの国際標準ツールの挑戦

JICA 九州では毎月、「異文化理解セミナー」と「国際交流パーティー」の2部構成のイベント「クロスロード・コミュニケーション」を開催していますが10月は12日(土)17時30分より行います。今回のゲストスピーカーは産業医科大学の久保 達彦(くぼ たつひこ)さんです。久保さんは JICA が開催を支援した世界保健機関(WHO)の国際ワーキンググループで議長を務められ、グループが策定した災害医療情報の標準化手法(Minimum Data Set:MDS)は、2017年2月7日に日本発のWHO国際標準として採択されました。この手法は2019年3月にモザンビークで発生したサイクロン災害で活用され、被災地全域の医療救援活動状況の速やかな把握に貢献しました。

是非、取材のご検討をお願い致します。

日時:10月12日(土曜日)17時30分より1時間を予定 会場:JICA九州

～MDSとは～

MDS は、被災地で活動する緊急医療チーム(Emergency Medical Team:EMT)が患者のカルテから抽出し、日報として被災国保健省へ報告すべき50の必須項目です。項目は、年齢層・性別・妊娠の有無、外傷等の疾病の種類、医療処置、災害との関連性などから構成されています。これらの項目と定義を国際標準化することにより、被災国保健省は活動中 EMT の日報データを合算して被災地全体の医療提供状況を把握・分析し、感染症流行への対応や限られた医療資源の配分などを迅速かつ効率的に行うことが可能となります。



モザンビークに派遣された際、各国の援助隊に MDS を説明される久保先生

【本件に関する問い合わせ先】

JICA九州センター 担当:伊藤

TEL 093-671-6311 e-mail: jicakic-helpdesk@jica.go.jp